

平成23年度事業報告

我が国の経済は、3月11日に発生した東日本大震災によるダメージによって、国内景気は急速に悪化しましたが、夏頃にはかなり持ち直してきたといえます。こうした背景にあるのが、震災からの復旧が急速に進んできたことです。

震災によって企業のサプライチェーンが寸断され、被災地での供給力の低下が全国の生産活動に大きな支障をもたらしましたが、復旧の進展と共に供給不足が解消されてきました。

しかしながら、原発事故による影響で電力不足や、自動車産業を中心とする製造業は円高による国内景気の停滞感が広がり、これらの原因の多くは企業による生産活動と個人消費とのいわゆる需要と供給のバランスが景気の先行き不透明と相成って見通しが困難なことなど依然として厳しい状況が続いており、加えてシルバー事業は政策の中での事業仕分けによって補助金も大幅に削減され、一層の自助努力が求められています。

このような厳しい情勢において、地域のニーズに応え、高齢者の福祉の増進に努め、国及び地方公共団体の高齢社会対策の重要な役割を担ってきたシルバー人材センターは、高齢法に定められた「高齢者の就業の機会を確保し、もって高齢者の福祉の増進に資することを目的」とした公益法人であり、当センターでは、急速に高齢化が進行する中で魅力あるシルバー人材センター事業の展開に努め、シルバー就業機会開拓専門員による啓発活動を積極的に実施して参りましたが、景気後退の煽りを受け、民間企業においてもデフレ要因とする経済不況のため事業実績は昨年度に比べ後退することとなりました。

公益社団法人として、より公益性、より透明性が求められていく中、将来を見据え確かな経営と活力ある高齢社会の構築を目指し今後も邁進いたします。

事業実績等の詳細については別頁で記載のとおりで、会員数、受注件数、契約金額等については下記のとおりです。

会 員 数	489 人	(平成22年度実績	514 人)
受 注 件 数	4,628 件	(平成22年度実績	4,728 件)
就 業 実 人 員	477 人	(平成22年度実績	517 人)
就 業 延 人 員	43,151 人	(平成22年度実績	46,532 人)
就 業 率	97.5 %	(平成22年度実績	100.6 %)
契 約 金 額	251,083,169 円	(平成22年度実績	260,556,897 円)

I 普及啓発事業

地域社会に対して、シルバー事業の意義と理念等周知を図るため、センター情報誌の発行、イベントへの参加、リーフレット等の活用による啓発活動を実施し、また、ケーブルテレビを利用した広報では、継続的に入会促進やシルバー事業の仕組み等を放送、会員の口コミによる加入促進に努め、「よりんさい」においては年間を通じてシルバー事業の活動等の情報提供を行い啓発活動を図りました。

II 安全・適正就業推進事業

(1) 安全就業

安全・適正就業委員会による対策会議を7月と2月の2回開催し、委員会による就業現場パトロールを実施し、会員に対する安全巡回指導・安全保護具の着用を喚起しました。また、県連合会開催の安全就業担当者研修会へ、同委員会委員4名が出席致しました。

運転業務や就業現場往復途上における交通事故防止を目的とし、自動車学校での運転適性講習会を4月と11月の2回開催致しました。

安全就業だより、「交通安全・防犯・防災・健康」に関する冊子及びクリアファイルを全会員に配布し安全意識高揚に努め、また、予め全会員へ安全就業だよりにより「事故撲滅キャンペーン」を周知し、期間中無事故の地区を対象に粗品を進呈する取り組みを実施した結果18地区中13地区が無事故を達成しました。

誠に遺憾ながら、本年度は次のような事故が発生しました。

【傷害事故】

発生月	場 所	内 容
7月	本 所	高さ約2mのブロック塀の上で剪定作業中、誤って転落し全身を打撲し、救急車で病院へ搬送された。
8月	南部支所	地籍調査測量補助業務中、誤って鉋で右膝を切創し、5針縫合した。
9月	本 所	就業先から自転車で帰宅中、一旦停止せずに出てきた車と接触し、右足を骨折した。
1月	本 所	伐木の枝を片付けていたときに、枝木の下にあった鉋で左手薬指を切創し、縫合した。
2月	本 所	食器洗浄就業のため、更衣室へ向かう廊下で転倒し、左手首を骨折した。

【物損事故】

発生月	場 所	内 容
6月	本 所	ナイロンコードによる除草作業中、小石を飛散させ駐車してあった車両のリアガラスを破損させた。
8月	南部支所	防草アグリシート張り業務を行うため、少し伸びた草の草刈り作業中小石を飛散させ、駐車してあった車両のスライドドアガラスを破損させた。
9月	南部支所	市道除草作業中、小石を飛散させ通行中の路線バスフロントガラスを破損させた。
9月	南部支所	市道除草作業中、小石を飛散させ自動車販売店のショウウィンドウを破損させた。
11月	南部支所	中学校の校内で枝うち作業中、誤って屋外灯を破損させた。

(2) 適正就業

適正就業については、ローテーション就業を推進するため、当該会員を対象とした会議や、継続業務の発注者を訪問し、シルバー事業の仕組みを説明し長期就業是正に向けて取り組みました。

職群のリーダー会議を開催し、請負契約事務における見積書・請書の記入方法や運用について周知をし、また、刈払機使用中の飛び石による損害賠償事故が多発していることから、作業前に予め現場付近の車両移動や、防護ネットなどを用い、飛散防止対策を講じるよう指導しました。

Ⅲ 就業開拓事業

就業機会開拓員による、個人家庭、民間企業等を中心に積極的に訪問活動を実施し、就業機会の開拓に努めると共に、市行政を中心とした公共機関や福祉施設等と連携をとりながら、新規就業の開拓に努めました。

【事業実績】

当該年度の事業実績は、受託件数 4,628 件と昨年度に比べ 100 件の減となり、受託金額では 251,083,169 円対前年度比 96.4%金額にして 9,473,728 円の減額となりました。受託金額を公民区別構成で比較すると、【公共】 66,680,948 円(全体の 26.6%) 対前年比較 (4.3%減) 【民間企業】 105,445,102 円 (全体の 42.0%) 対前年比較 (4.3%減) 【一般家庭】 73,855,487 円 (全体の 29.4%) 対前年比較 (2.9%減) 【独自事業】 5,101,632 円 (全体の 2.0%) 対前年比較 (8.4%増) となりました。

また、職群別に大別しますと 【一般作業群】 120,737,027 円 (48.1%) 【技能群】 44,440,610 円 (17.7%) 【サービス群】 33,908,926 円 (13.5%) 【折衝外交群】 20,085,376 円 (8.0%) 【管理群】 17,542,045 円 (7.0%) 【技術群】 14,255,743 円 (5.6%) 【事務群】 113,442 円 (0.1%) となります。

独自事業では、チャレンジショップ事業「よりんさい」・束木製作事業・剪定枝葉等チップ化事業等が好調に伸展しています。

IV 企画提案方式による事業

【地域生活支援サービス事業】

高齢者の方への生活後方支援（軽易な日常生活上の援助）として、一般家庭においては、外出援助、掃除、洗濯、庭の草取り、生垣、庭木の手入れ、室内の整理・整頓など、また、民間福祉施設においては、ヘルパー業務、食器洗浄業務、調理補助業務など、高齢者の方が毎日を安心して暮らせるお手伝い、また、あらゆる生活ニーズに肌理細かく対応できるよう支援に努めました。

【環境保全事業】

従来からのチップ化事業を拡充し、「緑のリサイクル事業」で作ったチップを、地域の農家等への販売に加えて、シルバー農園で栽培している花卉・野菜等の肥料として利用し、さつま芋の苗付けから収穫までを地域の保育園児にも体験してもらい事業の推進を図りました。

【生涯学習事業】

会員の趣味や特技を活用して、保育園、小・中学生との世代間交流による「伝える協育」の一環として、今年度は「知和ウェットランド」で湿地の四季を体験する野鳥観察教室を開催し、年間通して210名の参加がありました。

V 相談、情報提供

入会説明会を毎月1回開催し、センターの理念と目的事業内容等の情報提供を行いまた、会員相互の連帯感の高揚、会員による自主的な運営参加を図るために、職群班リーダー会議、各地区において地域班会議を実施しました。

今年度の会員数は、入会者54人に対して退会者が77人と前年に比べ25人の減であり、年度末会員数は男性355人、女性134人の合計489人でした。

【入退会状況】

入会者54人のうち、男性は32人、女性は22人平均年齢64歳であり、入会動機は、【経済的】28人（51.9%）がトップで、続いて【健康的】17人（31.5%）【社会的】6人（11.1%）【その他】3人（5.5%）の順となっています。

退会者は、男性53人、女性24人平均年齢72歳で、退会の動機は大半が病気を理由に退会されています。

VI 社会参加活動の推進

会員99名の参加による鵜飼乗船場周辺環境整備のボランティア作業、また、普及啓発促進月間中の「シルバーの日」では、会員296名の参加により、保育所や小学校、コミュニティセンター、公園など公共施設の除草や剪定、清掃等の効率的なボラ

ンティア活動を実施し、老人福祉施設等への慰問は、「すずらの会」の皆さんが9箇所において舞踊や大道芸を披露されました。

VII 無料職業紹介の実施

企業等からの求人に対し、雇用による就業機会の提供が図れるよう無料職業紹介責任者を設置していますが、今年度企業等からの求人はありませんでした。

VIII 財源確保及び組織体制改革

センターは公共性・公益性のある公益社団法人で、行政の一翼を担う団体であることから、行政機関との連携の強化を図り、受注確保並びに補助金の必要性を提唱し、また、センター事業の安定的な事業運営の継続性を維持していくため、組織体制の改革、未収債権の早期回収や経常費用の節減に努めました。

IX 業務執行

本年度は、公益社団法人移行や設立20周年記念事業などから、年6回の理事会を開催し、関係法令を遵守した組織及び円滑な事業運営に当たるように努めました。